対のみが次端部型染色体で短腕に付随体をもつということが述べられた。ところが，このたび観察したサカワサイシン（*H. sakawana*），トサノアオイ（*H. costata*），オナガカンアオイ（*H. minamitania*）の三種では，そのような付随体をもつ次端部型染色体が全く認められず，最小の染色体は次端部型染色体でおきかえられていた。このような染色体の存在は，この3種においてのみみられるものであった。次端部型染色体は，付随体をもつ次端部型染色体と比較した場合，その短腕部がいくぶん短く，異質染色質を欠くことなどから，末端部の欠失によって二次的に派生したものと考えられる。また分類学的に，これら3種を含むサカワサイシン節（sect. Sakawanae）とミヤコアオイ節（sect. Aschidasarum）とを同一節にまとめるべきという意見もあるが，これら二つの節の間には核型，C-分染型のうえでの大きな違いがみられ，それを考慮すると，むしろそれぞれ独立した節として取り扱うのが妥当と思われる。

□環境庁自然保護局：**屋久島原生自然環境保全地域調査報告書** 714pp. 1984. 同局，非売品. 日本自然保護協会が調査を担当し，植物分類学関係では光田重幸・永益英敏氏（京大）による維管束植物の全既知種の目録（文献調査）と調査地域での採集植物目録，平野 実・光田重幸氏による淡水珪藻・鼓藻の採集品目録，土永浩史氏（奈良教育大）の蘚苔類目録がある。植物生態学関係では6篇の調査報告がある。このほか気候・地質・地形・土壌，動物関係の調査報告が含まれている。 （金井弘夫）

□巌佐耕三・前田みね子・斎藤捷一：**生物生存の原理を探る　プロチスタ生物学入門** 227 pp. 1984. 培風館，東京. ¥2,100. プロチスタ（著者等によると動物でも植物でもない生物）について書いた本である。といってもプロチスタに属する細菌，粘菌，真菌，藻類，原生動物等についての解説本ではなく，多様な構造と機能をもち，多様な生きざまを示すプロチスタに視点をおいた，生物に共通する基本法則を理解する本である，と著者等は述べている。内容はプロチスタとは何か，体制，分化と造形，増殖と生殖，運動，走性，生態系，個体群，種と進化などの章から成る。各論的でないとは言え，微細藻と粘菌の専門家による本であり，プロチスタについて豊富な情報が盛られ，プロチスタ自体の理解にも大いに役立つ。大学の教養教育を永年担当された経験と著者等を中心に数年続けてきたというプロチスタ・ゼミの成果が生かされ，専門的であるが理解し易い内容の本となっている。欲を言えば，図と表に一工夫ありたいところ。さらに親しみ易くなったであろう。 （千原光雄）